

群 教 セ	G05 - 03
	令 6.287集
	音楽 - 小

学びのつながりを生かしながら 主体的に学習に取り組む児童の育成

——音楽科における既習事項を活用した学習指導の工夫を通して——

特別研修員 木暮 秀行

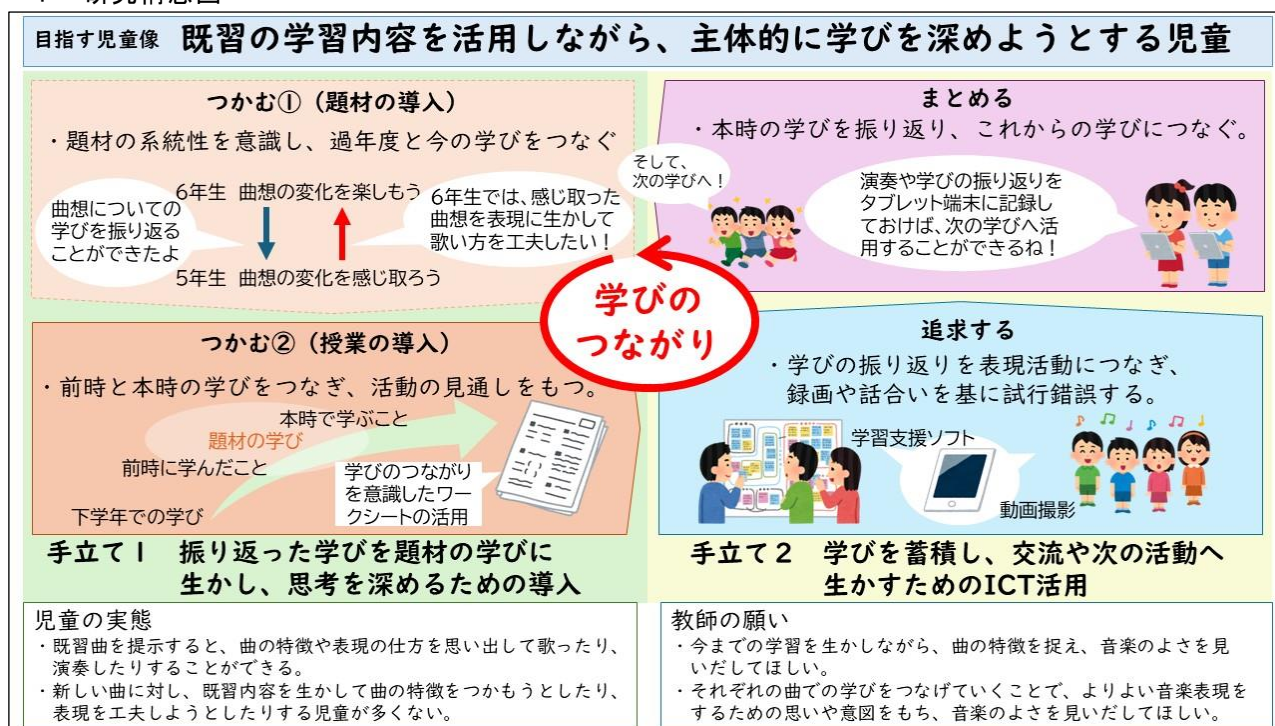
I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年3月公示）では、音楽科における学年の目標及び内容は、「第1学年及び第2学年」（低学年）のように2学年まとめて示されている。これは、「表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより、音楽科で育成を目指す資質・能力が徐々に身に付いていくという音楽科の学習の特質を考慮したものである」ことが小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編で述べられている。

研究協力校の児童は、既習曲を提示すると、曲の特徴や表現の仕方を思い出して歌ったり、演奏したりすることができる。しかし、新しい曲に対し、自ら既習内容を生かして曲の特徴をつかもうとしたり、表現を工夫しようとしたりする児童は多くない。さらに、感じ取ったことを言葉で表したり、表現を工夫したりすることに対し、正解か不正解かといった思考に捉われてしまい、自信をもって発言することができない児童もあり、自由な発想や学びの深まりが生まれにくい雰囲気がある。そのため、題材のねらいや授業のめあてを、一題材や本時の学びのみを意識したものから児童のこれまでの学びを活用したものにし、学習の積み重ねによる知識や技能、表現の高まりや学びの深まりを実感しながら、学びを発展させていく授業にしていく必要があると感じる。そこで、題材構想の段階において下学年からの学びや題材内での教材間のつながりを意識し、題材の導入や一単位時間の導入において既習曲での学びを振り返りながら学習を進めていくことで、既習事項を生かしながら主体的に学習に取り組み、学びを深められる児童が育成できるようになるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

児童が学んだことを生かしながら主体的に学習に取り組むことができるよう、以下の手立てを設定する。

手立て1 振り返った学びを題材の学びに生かし、思考を深めるための導入

題材の導入や一単位時間の導入において、本題材に関連した下学年の既習内容を振り返ることにより、どのようなことを学んできたか再確認する場を設ける。そして、これからの学びに対する見通しをもつとともに、既習事項を手掛かりに思いや意図をもって表現したり、曲を聴いたりするための補助材料としたりできるようにする。

手立て2 学びを蓄積し、交流や次の活動へ生かすためのICT活用

追求する場面では、交流の際、ミライシード（オクリンク）を活用し、友達の意見を共有したり、意見をまとめて表現の工夫に生かしたりできるようにする。また、表現している姿を動画撮影することで、自分たちの演奏を客観的に捉え、思いや意図をもって表現の工夫を試すための材料とできるようにする。まとめる場面では、学習内容や振り返りをタブレットに蓄積していくことで、学びがつながったり積み重なったりしていくことを実感し、次の学習への意欲を高めていけるようにする。

Ⅲ 実践例

1 題材名 「曲想の変化を楽しもう」（第6学年・2学期）

教材名 「思い出のメロディー」（深田じゅんこ 作詞／橋本祥路 作曲）

「ハンガリー舞曲 第5番」（ブラームス 作曲／シュメリング 編曲）

2 本題材について

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年3月公示）の「A表現」（1）の「ア、イ、ウ」、「B鑑賞」の「ア、イ」、「共通事項」（1）の「ア．リズム、旋律、強弱、フレーズ」及び「イ．反復、変化」に関連している。

児童は、これまで曲想と音楽の構造などとの関わりについて考え、音楽表現を工夫したり、音楽のよさを味わったりする経験をしてきている。そして、第5学年題材「曲想の変化を味わおう」では、気付いたことや感じ取ったことを伝え合う活動を通して、様々な音楽を形づくっている要素によって曲想が生み出されていることを学んできた。歌唱教材「思い出のメロディー」は、三部形式の曲で、言葉の繰り返し作曲の段階で付け加えられている。旋律の音の上がり下がりや強弱、歌詞の内容などから各部の曲想を感じ取り、その曲想にふさわしい表現を歌いながら工夫したり、工夫した表現を言葉や歌で伝え合ったりする活動を取り入れる。また、曲全体を歌い、曲想の変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり、伝え合ったりする楽しさを味わわせたい。

鑑賞教材「ハンガリー舞曲 第5番」も三部形式で、速度や強弱、調の変化に伴う曲想の変化を感じ取るために適した楽曲である。「思い出のメロディー」の学習と関連付け、曲想の変化によるよさや面白さに着目しながら学習を進められるようにする。また、音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れ、音楽を形づくっている要素同士の関わり合いに注目しながら、曲想やその変化を感じ取り、友達と話し合う活動を通して、音楽を聴くことそのものの喜びを深めていくようにする。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目 標	(1) 曲想及びその変化と、強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。（知識及び技能） (2) リズム、速度、旋律、強弱、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。（思考力、判断力、表現力等） (3) 曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる曲想の変化を味わう。（学びに向かう力、人間性等）
--------	---

評価 規 準	(1) 知識・技能 ①曲想と強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。 ③曲想及びその変化と、強弱などの音楽の構造との関わりについて理解している。 (2) 思考・判断・表現 ①リズム、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ②速度、強弱、調、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ①曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
	過程	時間 主な学習活動	
	つかむ	第1時 ・前学年での曲想に関する学習を振り返り、題材の学習の見通しをもつ。	
	追求する	第2時 第3時	・歌詞の内容を捉え、ア、イ、ウの曲想を感じ取って主な旋律（上声部）を歌う。 ・リズム、旋律、強弱、フレーズに気を付けて、ア、イ、ウの曲想の違いを生かした歌い方を工夫する。
		第4時 第5時	・前時の学習を振り返り、曲全体を通して、曲想の移り変わりを味わいながら二部合唱をする。 ・音楽に合わせて体を動かしたり指揮のまねをしたりしながら聴き、アとイの曲想について、感じたことや気付いたことを友達と話し合う。 ・旋律の反復や変化、調などに気を付けて、曲想の移り変わりを味わいながら聴く。
まとめる			

3 授業の実際

本時は全5時間計画の第3時に当たる。

(1) 手立て1について

題材の導入において、第5学年で学習した曲を提示し、曲想の意味や、場面ごとの曲想の変化を感じ取る学習を振り返った。また、曲想の説明や曲想に関わる音楽の要素についてまとめたものを掲示したり(図1)、ワークシートに既習事項を記入する欄を設けたりする(図2)ことで、題材の学習全ての教材で既習事項を意識できるようにした。授業の振り返りから、ほとんどの児童が第5学年での学習や要素をまとめたものを基に題材の見通しをもてたことが分かる。また、一単位時間の導入においても既習事項を常に意識しながら学習を進めていけるようにした。曲想を感じ取る学習では、第5学年での学習を生かし、曲想に対する根拠を明確にするために、歌ったり楽譜から読み取ったりすることで、ほとんどの児童が知覚したことを基に、楽譜から気付いたことや歌詞の内容から感じ取ったことをワークシートに記入することができた。



図1 掲示物

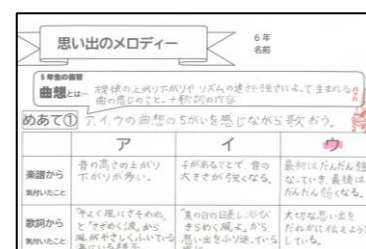


図2 ワークシート

(2) 手立て2について

児童が感じ取った曲想を共有したり、クラス全体で表現したい曲想を決定したりする場面において、ミライシード(オクリンク)を活用し、意見を共有した(図3)。感じ取った曲想を基に歌い方の表現を工夫する活動では、タブレットで伴奏を流し、歌っている姿を動画撮影して、思いや意図に合った表現になっているか客観的に確認しながら追求できるようにした(図4)。児童は、録画した映像を確認し、さらによい表現にするにはどうしたらよいか積極的に意見を出し合い、歌うという活動を繰り返し、意欲的に表現を工夫しようとしていた。



図3 オクリンク

振り返りでは、ミライシード(オクリンク)に記録し、学びの積み重なりや深まりを実感できるようにした。授業で必ず押さえないことは振り返りシートに星の数で自己評価し、その他に感じたことや理解したことなどをコメントで残すことで、今後の学習にも生かせるようにした。児童は「どのように工夫すればよいのか分かった」「録音をすると客観的に考えられる」など、学びを振り返り、次の学びにつなげようとしていた。



図4 歌う姿の撮影

(3) 考察

今回の実践を通して、今まで思いや意図をもって音楽表現を工夫する活動に対して消極的だった児童が、主体的に活動に取り組む姿が見られた。既習事項である曲想の変化を感じ取る学習を題材の導入で振り返ったことが、曲想について歌詞の内容や音楽記号などの手がかりを基に深く感じ取ろうとする意識を高めることにつながったからだと考えられる。また、曲想の変化を感じ取り、それぞれの曲想に合った表現方法を工夫していくという本題材の学習の見通しをもつことにもつながった。その結果、学びの積み重なりを意識し、さらに学びを深めていこうとする意欲が高まり、曲想を基に自分の思いや意図を表現するためにどのように歌い方を変えればよいかという課題意識をもつことができた。追求の場面では、オクリンクで集約した意見を基に歌い方をどのように工夫するか児童同士で積極的に交流し、動画撮影した歌を確認しながら、聴き手に伝わるようにするための話合いが活発に行われた。タブレットを活用することで、伴奏を流す、動画撮影するという作業を児童自身が短時間でできるようにしたことが十分な活動時間の確保につながり、活発な活動ができたと考えられる。さらに、工夫した表現について歌で発表し合う際、他の児童が考えた歌い方の工夫にもほとんどの児童が気付くことができた(図5)。振り返りのコメントには、感じ取った曲想を表現するために工夫したことや、友達の工夫に気付けたことが表れており、児童の学びが深まっている様子がうかがえた。

以上のことから、学びのつながりを意識し、題材や一単位時間の導入において既習曲や既習事項を振り返ったことは、学んだことを生かしながら主体的に学習に取り組む姿につながったのではないかと考える。

めあて② それぞれの曲想について、思いを込めるための歌い方を工夫しよう		
強弱がわかりやすくつけられていた。声の大きさをしかりと感じられた。	全体のリズムが前向きで、クレッシェンド・デクレッシェンドが強調されていた。	山なりになるように、「だんだん」を強く、「だんだん」を弱くする。なめらかに歌う。ふりつけを入れる。かえらった。
音が高いとき、声を大きくした。音が低いとき、声を小さくした。	音の強弱を意識して、	
まとめ 声の大きさを取り、しくで曲想を工夫できた。		

図5 ワークシート

IV 研究のまとめ

1 成果

既習事項を振り返りながら学習を進めていったことは、児童が題材の学習に見通しをもち、必要感をもちながら主体的に活動に取り組むために有効であった。そして、学習内容や授業の振り返り、演奏の様子などを記録する際、ワークシートやタブレットを有効に使い分けることで活動が充実し、児童自らが学びを客観的に捉え、深めていくことにつながった。また、表現活動で深めた「曲想の変化」を、その後の鑑賞の視点として生かしている姿が見られた。他にも、今までの学習を振り返る際、タブレットに蓄積した昨年度の学びの様子や下学年の児童の学びの様子に触れることで、学年間での学びをつなぐきっかけにもなった。

2 課題

より実感を伴った学びにするために、授業の始めと終わりの歌唱表現の変容を聴き比べる時間を確保する。そして、その変容の原因や根拠を振り返る時間も設定したい。そのためには、導入時での既習曲や既習事項の振り返り方の更なる工夫と活動内容の精選が必要である。学びの蓄積は、思考や表現を広げることにつながるため、継続しながらより有効な方法を検討していきたい。

V 資料

思い出のメロディー

6年 | 組 番
 名前

5年生の音楽

曲想とは... 旋律の上がり下がりやリズムの速さや強さによって生まれる曲の感じのこと。+歌詞の内容

めあて① ア、イ、ウの曲想のちがいを感じながら歌おう。

	ア	イ	ウ
楽譜から 気付いたこと	音の高さの上がり下がりが多い。	4があることで、音の大きさが強くなる。	最初はだんだん強くなっていき、最後はだんだん弱くなる。
歌詞から 気付いたこと	「そよ風、にやそわれ、と「ささめく波、から風、がやさしくふいている海にいます。」	「夏の日の日差し浴びきらめく風よ、から、思い出をふり返している感じ。」	大切な思い出をだれかに伝えようとしている。
◎曲想	音の高さの上がり下がりから、風がやさしくふいている海にいますイメージ。	大切な思い出をふり返り、なつかしんでいる感じ。	思い出をあたかく包み込み、大切な人に優しく伝えようとしている。

めあて② それぞれの曲想について、思いを伝えるための歌い方を工夫しよう。

	ア	イ	ウ
歌い方を工夫したところ、歌をきいて気付いたこと	強弱がわかりやすくつけられていた。声の大きさをしっかりと感じられた。音が低いとき、声を小さくした。音が低いとき、声を小さくした。	全体的に声が高め、クレッシェンド・デクレッシェンドが強調されていた。音の強弱を意識した。	山なりになるように、「だんだん、音を強くて、だんだん、弱くする。」なめらかに歌う。ふりつけを入れる。からいた。
まとめ	声の大きさやひびき、しくりで曲想を工夫できた。		

資料1 ワークシート

思い出のメロディー 振り返り 2

① 曲想を感じとることができた ☆☆☆

② 曲想を歌で表現するための工夫を考えられた ☆☆☆

クリックしてテキストを編集

その他できたことや気づいたことなど

・声の響きや大きななどを工夫することによって、曲想を伝えることができるとわかった。

・同じグループの子と一緒に深山考えることができた。

・自分たちの歌を録音すると、歌った後に客観的に考えることができてわかりやすかった。

思い出のメロディー 振り返り 2

① 曲想を感じとることができた ☆☆☆

② 曲想を歌で表現するための工夫を考えられた ☆☆☆

クリックしてテキストを編集

その他できたことや気づいたことなど

曲想を歌うにつれて歌詞を感じ取ったり、声の強弱の気をつけたり音の高さの上がり下がりお感じながら歌えば、曲想を感じながら歌える。

思い出のメロディー 振り返り 2

① 曲想を感じとることができた ☆☆☆

② 曲想を歌で表現するための工夫を考えられた ☆☆☆

クリックしてテキストを編集

その他できたことや気づいたことなど

声の大きさ、響き、仕草などで曲想を工夫できることがわかった。

曲想を伝えるための歌い方をしっかりと工夫できた。振り付けも入れた。

思い出のメロディー 振り返り 2

① 曲想を感じとることができた ☆☆☆

② 曲想を歌で表現するための工夫を考えられた ☆☆☆

クリックしてテキストを編集

その他できたことや気づいたことなど

音の上がり下がりや声の大きさ、仕草などを使うと曲想を歌で表現することができると言う事がよくわかった。

資料2 振り返り

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標

ミライシード、オクリンクはベネッセコーポレーションの商標又は登録商標です。

なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。